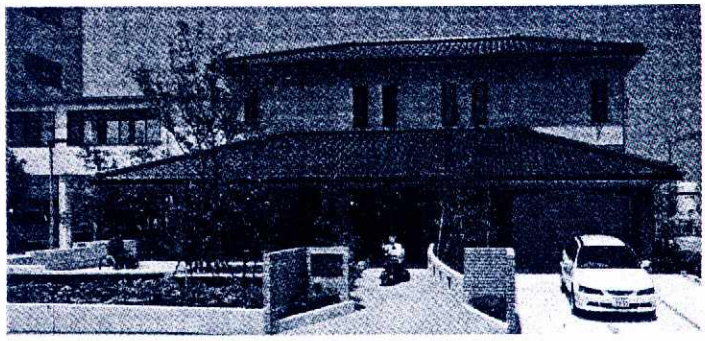
1999／1
Vol. 7

石川県リハビリテーションセンターニュース

バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」がオープン！



ウェルフェアテクノハウスは、高齢者や障害のある人が快適に住まいができる生活空間や設備機器、福祉用具などを総合的に研究するための実験施設です。

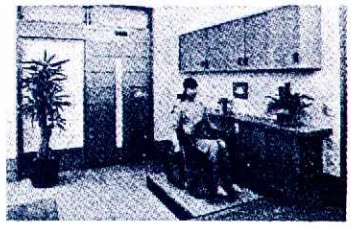
石川県では、平成10年7月24日石川県リハビリテーションセンターの敷地内に、バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」という名称でオープンしました。

利用方法

1）生活動作の指導を目的として

在宅復帰する場合や地域リハビリテーションを実施する場合、より現実的な生活空間および場面を設定し、実生活に沿ったＡＤＬ訓練や指導が行えます。

2）テクニカルエイドの支援を目的として



① 本人や家族が体験を通じて福祉用具を理解すると同時に、指導者自身が彼らの能力や福祉用具の適合について正確な観察と評価ができます。

② 新築や住宅改造のニーズに対し、本人、家族、医療・福祉関係者、建築士などが一緒に考え、実際にシミュレーションを行うことで共通認識をもちながら適正な住宅設計を行えます。

3）研究開発を目的として

① 個々の能力障害に対する分析を積み重ねることで、バリアフリー建築の一般的な指標に対し原点に立ち返った評価、検証が行えます。

② 産学官共同研究の場として、相互協力のもとに今後の住宅や公共施設、福祉用具のあり方を考察することができると考えています。

誰もが安心して心豊かに生活するためには、本人や家族の目的にかなった質の高い生活道具や住宅環境の整備が必要です。ただし、それらが有効に働き、自立度の高い生活の向上や家族の介護軽減に結びつけて行くためには、「本人たちの能力と道具と環境の調和」について深く究明しつつ、より高度な生活指導を行う必要があります。

ほっとあんしんの家はオープン以来、障害のある方をはじめ、一般県民、福祉用具や建築・住宅関係の企業、医療・福祉や行政関係者、学生など多数の方にお越しいただき、12月までの見学者数は4,700人を超えています。

『ふれて、ためして、たしかめて』安心した質の高い生活空間の発見を求めて、まだ訪れていない方はぜひ一度来て下さい。

・施設の概要
①構　　造　鉄骨造２階建
②延床面積　300㎡

・施設の利用
①開 館 日　年中無休
（ただし、祝日と年末年始は休館）
②開館時間
午前９時から午後５時まで
③利用料金　無料
④利用申込
自由に利用できますが、団体見学や研究開発の場合はあらかじめお問い合わせ下さい。

・問い合わせ先
(076) 266－2869

北欧視察研修体験記 2

デンマークの統合福祉

作業療法士　寺　田　佳　世

総合福祉施設内のアクティビティルーム

1998年９月、デンマークとノルウェーにおける障害者・高齢者の地域ケアを視察する機会を得ることができた。今回その中の一つであるデンマークの統合福祉について紹介したい。デンマークの国土は日本の10分の１であり人口は520万人（うち65歳以上15.5％、80歳以上４％）である。国には14の県（平均人口325,000人）と275の市町村（平均人口17,000人）があり、医療・福祉については、国がガイドラインの制定、県が医療機関（病院）やテクニカルエイドセンターの運営、市町村が福祉や在宅ケアサービスを管轄している。

デンマークにおいてノーマライゼーションの言葉が法律で使われたのが1950年。以来ノーマライゼーションは北欧の福祉理念の根底となり現在に至っている。全ての人が一人の人間として尊重され、自己の能力を最大限に生かして、安心した暮らしができることを当然としている。また、機能障害を個人の特性として捉え、そこから生じる社会的不利（ハンディキャップ）を解決するための福祉サービスの提供が常に考えられている。具体的には、障害が生じても、それまでの生活と同様な生活を継続できる生活支援や高齢者住宅・保護住宅が整備されている。それにより個人のプライバシーの尊重、能力の尊重、個性の尊重が厳守される『個人を尊重する原則』が成り立っている。この他、必要なサービスを本人自身が自己決定できる『自己決定の原則』、本人の残存能力を尊重した福祉用具や住宅環境整備により自立を図る『残存能力活用の原則』といった３原則により質の高い生活の確保ができる取り組みを行っている。

市としてはデンマークの中では10番目の人口規模（約58,000人）であるエルシノア市を訪問した。市を５地区に分け、各地区にいくつかの統合福祉施設を設置し、それを核に高齢者の地域ケアを実施している。市では地域ケアの充実に向け1985年にワーキンググループを設置し1990年から10カ年計画で高齢者の在宅ケアと施設ケアの統合計画に着手した。24時間対応サービスの充実と人件費、設備費の問題を軽減する意味でも統合福祉の取り組みを進めた。統合福祉施設の中で看護と介護チームを編成。１地区６チーム（１チーム12～15人。うち看護婦２名その他介護者）を置き、１チーム約500人のケースを対象としている。訪問した統合福祉施設（ハムレット・アクティビティー・センター）は以前ホテルであった建物をリフォームした施設であった。施設の中にはアクティビティセンター、セントラルキッチンを持ち配食サービスとカフェテリア方式による食事の提供、痴呆・障害者のディサービス、訓練室、高齢者住宅（28世帯）と多機能を有している。アクティビティーセンターは５年前から運営が市から利用者の自主運営に代わり利用者委員会を設置してより充実した機能を果たしている。利用者が750名、会費が月約600円。47種類のアクティビティーを持ち月～金曜日の８時～16時まで利用可能である。そこで生き生きと活動しているお年寄りや障害を持つ人を見ていると、作業療法士として目を見張るような感動を受ける情景である。ディサービスや訓練については市の専門職である理学療法士や作業療法士が担当している。また高齢者住宅では日常の生活動作に関して用具の活用や住宅設備の調整、残された問題に対して適切な人的支援をおこなうといった、ハードとソフトのバランスが求めやすい状況が整えられている。左片麻痺で60代後半の一人暮らしの男性を訪問した。移動は本人の能力や体型に応じた車いすを利用している。首には緊急連絡のスイッチをつけ、いつでも看護・介護チームに連絡がいくようになっている。昔から愛用していたソファーの足を補高し乗り移りを助ける手すりを壁に取り付けソファーの利用ができるように工夫してある。ベッドと車いすへの移動は本人の能力をなるだけ利用できるように移乗機の利用、髭そりなども自分でできるように鏡の位置を車いすの高さに合わせて固定し横に電動髭そりが取りやすいように設置されている。また朝昼夜の薬も分かりやすいような薬ケースを

一人暮しをする高齢者とヘルパー
移乗動作を助ける福祉用具の利用

利用している。非常に細部にわたり本人の能力を尊重した環境調整と福祉用具の利用が行われている。また在宅生活を希望する高齢者や障害者が安心して生活できる24時間・施設サービス型の在宅支援サービスの充実が図られている。

何よりも1990年にスタートした10カ年計画を1995年に高齢者・障害者審議会、苦情委員会などを設置し、市政への市民参加強化を図り市民のニーズ分析を手がけ現在1998年新10カ年計画に取り組んでいる活動力に感銘を受けた。予算の削減、スタッフ増員や施設の増加が困難な状況の中でサービスを向上させるためにまず市民の自主性を尊重しサービスの条件を正確に市民に伝え、質の下がらないサービスの充実に取り組んでいる。サービスの均一化や判定基準の統一、介護者の労働環境の整備、統合福祉の推進、スタッフの教育、高齢者住宅の改造、リハビリテーション施設の充実等市民のニーズを受け新10カ年計画が着々と進められていることにデンマークにおける地域ケアの深みを感じることができた。

'98　バリアフリー　アイデアコンテスト

1　バリアフリー推進工房では、福祉用具の開発研究を促進するため、お年寄りや障害のある人の自立生活支援や介助量の軽減を図るための創造的な作品やアイデアを県民から募集しました。

2　応募件数　50点（内訳・作品部門　製品や試作品　35点・アイデア部門　15点）

3　専門家やバリアフリー推進工房のスタッフによる審査の結果、可能性をひろげる創造性、実用性の高い提案について、次のとおり入賞作品を決定し、表彰しました。

〔作品部門〕

●優　秀　賞　　3点

「自動ブレーキ装置付車いす」	㈱北陸メディケア
「アームスリング付ベスト」	斉藤英美子（一般・金沢市）
「上肢挙上用装具」	藤井　信好（国立療養所医王病院・作業療法士）

●奨　励　賞　　2点

「Wパンチキス」	宇野　満雄（明和養護学校・教諭）
「なかよしキャリー」	漢野　秀子（一般・金沢市）

●思いやり賞　　6点

「片手で開くポータブルトイレ」	北　亜希子（恵寿総合病院・作業療法士）
「すてきステッキ（松葉杖）」	宮森　紀好（㈱みやもり）
「片手で手袋」	荒木美智代（一般・金沢市）
「無段階長さ調節杖」	墨田　雄二（スミタ研究所）
「座位移動の方のポータブルトイレ」	千田　　茂（能登中部保健所・作業療法士）
「楽スルー（らっくする－）」	小池　隆行（金沢リハビリテーション病院・作業療法士）

〔アイデア部門〕

●アイデア奨励賞　3点

「車いすパワーアシスト装置	南　　正晃（七尾工業高校・教諭）
（ソーラーパネル付き）」	池田　政彦（　　〃　　・学生）
「屋外でも使用しやすい歩行器」	佐々木弘之（石川整肢学園・理学療法士）
「あんぜんストロー」	寺西　幸也（一般・金沢市）

お知らせ

リハビリセンターでは、福祉用具や住宅改造などに関するテクニカルエイド相談に応じています。

◎主な相談内容

- 福祉用具（自助具、介護機器、移動用機器等）の適応や使用
- 障害者住宅の設計や改造
- 障害者の自動車運転
- 各種年金や公的助成金制度等の社会資源の活用
- その他リハビリテーションに関するいろいろなご相談

◎利用方法

- ご相談は、ソーシャルワーカー又は作業療法士が電話でお受けします。

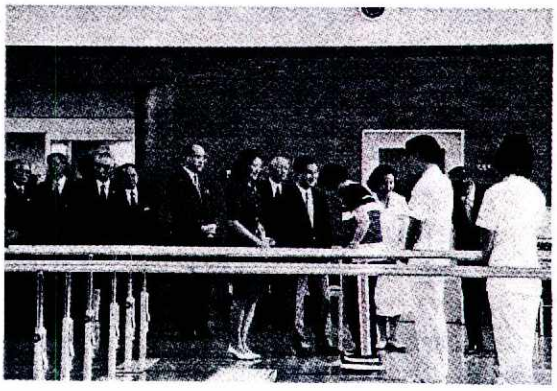
◎バリアフリー住宅改造相談

- 月１回、建築士、作業療法士などがご相談に応じます。（今年度は、２月19日㈮、３月19日㈮の午後です。）
- ご相談は予め電話でお申し込み下さい。

虹の窓から

皇太子御夫妻の御視察

次長　岸谷　都



平成10年８月26日、第10回全国青年農業交換大会に御臨席された皇太子御夫妻が当センターにお立ち寄りになられました。思いおこせば平成７年７月28日に紀宮様をお迎えした頃は、当センターはまだ開設１年目でありスタッフも見えない未来に向かって無我夢中の時でした。紀宮様の優しいお言葉に我々は感激し励まされました。そして開設５年目を迎え、スタッフ数も増え、知事の北欧訪問を機に始まったデンマークリーベ県テクニカルエイドセンターへの職員派遣、地域テクニカルエイドセンター開設、バリアフリー体験住宅ほっとあんしんの家開設と短い期間にさまざまな事業が始まり、成果が実ろうとしています。

今回の皇太子御夫妻の御視察は、まさに我々への大きな贈り物でした。御視察は、主に開設したばかりの「ほっとあんしんの家」を中心にご覧いただきました。この家はさまざまな障害のある方に自立的生活を提案し実際体験するための施設です。天井走行リフター、呼吸スイッチでの環境制御装置、高さ調整可能な入浴シミュレーション装置にて、重度な障害の方も自立的生活を営んでいける工夫を実演しました。御夫妻は職員１人１人にも声をかけられ各専門職の取り組みを興味深くご覧になられました。当日は脳卒中で片麻痺の方、歩行器歩行の方の調理実習や、頸髄損傷の方が自助具でパソコンのキーボード操作をしている様子もゆっくりとご覧になられ励まされておられました。いろいろな工夫や技術が生活を豊かにしていくこと、そしてそれらは利用者と職員のチームワークで展開していくということも充分理解していただけたと思います。

理学療法室や作業療法室でも利用者に日頃の治療のことをお尋ねになったり、障害についての励ましを１人１人に優しく声をかけていただきました。最初は緊張していた人も御夫妻の柔らかなまなざしや優しいお声にすっかりリラックスしてとても穏やかな時間がゆっくりと流れていきました。それぞれの障害に応じたリハビリプログラムを行い、当センターが目的をもって日々の治療を行っているところをご紹介できたと思います。

また理学療法室の広々とした明るい空間がとてもすばらしいと誉めていただきました。各種特徴のある車いすの紹介や、最後にはテクニカルエイド支援のための工作室にも入っていただき食事の自助具やスイッチ改良の製作場面もご覧いただきました。

皇太子御夫妻は、日頃障害者スポーツ大会へのご出席や施設のご視察をされています。特に長野冬季パラリンピックの屋外の各競技場へ足を運ばれ、声援を送っておいでた姿は印象的でした。そのなかでテレビ報道されているごく一部ではお声までは聞けませんが、今回のご視察で「いかがですか。」「どうぞお元気で。」という１人１人にかけられた心のこもったお言葉はいまでも耳から離れません。

今後は、我々の自立的な生活を支援する取り組みが県のバリアフリーの施策の種となって県内に蒔かれいずれは大きく実を結んでいくことと思います。

雅子妃殿下のお誕生日12月９日は「障害者の日」です。今後も御夫妻がご健康で、多くの方々に励ましの声をかけられ、心和ませていただけることを願っています。

編集・発行　石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353
金沢市赤土町ニ13－1
TEL（076）266－2866
FAX（076）266－2864

この冊子は、再生紙を使用しています。